

東京山桜会

第 44 回 総会・懇親会

平成 13 年 6 月 2 日 (土)、東京会館の東商スライムに於いて、約 70 名参加されました。約 30 名、全体の 1/3 以上が 65 才以上の豊饒とされた偕行社卒の方々でした。毅然とされた追手前学院卒の若中年が、約 40 名、うち 8 名が、大阪から来て下さいました。会は大いに楽しく和やかに盛り上がりました。今年は、雅子様御懐妊を祝し、五色五あんのかわいらしい一口饅頭の、雅子様おめでとご饅頭を食へ皇居を眺めながら乾杯をし東京会館の美しい食事をし、明るい話に花が咲き賑わいました。皆様の顔が、パツと明るくなり晴れ晴れした気持ちで楽しく過ごしました。役員の方々の工夫で、毎年お食事会、観劇会、音楽鑑賞、名園めぐり 92 才の田中稔先生の引率と解説つきは、あっぱれです。(等企画され女性会員も花をそえています。リフレシヨとリラックスができて、好評です。片桐先生や緒方先生方の志を受け継いだ東京山桜会が、来年 45 周年を迎えます。来年は 70 名を 100 名以上に増やしたいです。偕行社の大先輩達が、『東京山桜会総会の写真を見てくれて、ワシ、俺、僕の顔を見て、ワシ、俺、僕とわかってくれて、東京に会いに来てくれたらなあ。』と心待ちにして期待

されています。生きていく間に会っておきたい方、なつかしい友達にあつて話をされたら、生活改善、心機一転奮起一番されたら、友達達の輪をひろめたい方、大学生の方、子育てで忙しい方、大先輩達にお会いしませんか？ 人生の相談、アドバイスをして下さり、心強

い助手です。グループで来られても、大歓迎です。ドシドシいらして下さい。東京見物旅行がてらいらして下さい。私達でよければ東京案内します。まてます。(佐伯記)



小 49 期組

クラス会開催

平成 13 年 6 月 9 日 (土) 大阪東急ホテルに於て本年度クラス会を開催いたしました。

49 期組クラス会は毎年 6 月の第 2 土曜日に開催する事にしており本年は昨年より 1 名減の 9 名の参加となりました。

恩師の神原先生も御他界され卒業後六十有余年経過した事もあり皆それぞれの健康上の理由もあり一年一年参加者が減少する様になりましたが一年に一度のクラス会をお互いが待ちわびる様になり約 2 時を普話しに花を咲かせ又来年の再会を約し解散いたしました。

9 月 26 日 (常任幹事 佐々木成之進)

小 58 期組

第 4 回 同窓会

去る 7 月 8 日 (日) 第 4 回同窓会が、梅田の青雲にて開催された。

皆な再会を楽しみにして集ったばかりで、昔話に花が咲き、あつとつ間に時間が過ぎてしまった。それでも最後は一人づつ近況報告を行い、それぞれの人生感に聞き入り感慨一人であった。

来年の七夕の次の日曜日に、また会おうとなつてを惜しみながら解散であった。

当日の出席者名は、次の通り。(石川、川口、辻本、中島、額田、長谷川、柳、山中、吉川、弥谷)



小 55 期組のクラス会 五十九年ぶりの吉野

吉野

小学校 4 年生の時に吉野へ遠足に行った我々偕行社小 55 期組では、59 年ぶりに吉野へ一泊旅行を行った。

幹事として何より嬉しかったのは、32 人にクラス会の案内状を送り、32 人の全員から回答のハガキを貰った事である。出欠に拘わらず、又病氣療養中の人からも全員、近況を書いて返事をくれた。さすが全国有数の厳しい躰教育をつけた偕行社の仲間だ、60 年たちた今も当時の教育は我々の体の中にしみついていると感激をした次第である。

平成 13 年 6 月 9 日、近鉄アベノ橋駅より特急に乗って吉野神宮駅で先着の人達と合流をしてまづ吉野神宮に参拝をした。

利見君が昔、我々が吉野へ遠足に来たのはアメリカのドリートル空襲のあった日であったと記憶しており、全員から懐い記憶力と絶賛をあげて少々話していた。おかげでそれは昭和 17 年 4 月 18 日であった事が判明した。

参拝後、59 年前と同じ場所、本殿前の石段に整列をして記念撮影をした。あの時はみんな此処で後醍醐天皇に戦勝祈願をしたんやなと言いつつ、忍ち無邪気な小学 4 年生の昔に戻って石段の上を何度も踏みしめたのであった。

地元の名倉君の肝入りで蔵王堂の近くの湯元、宝の家(ホノヤ)に入り溪谷に面した露天の岩風呂に入り汗をながした。



吉野山で温泉が出た事を知らない人も多い様だ。此処の露天風呂に浸かりながら櫻の季節なら千本、万本の櫻が一望して見渡せる絶好の立地になっている。

宴会後はカラオケに興じた。古い歌からスタートしたが新しい歌も結構多く、最後は全員で金剛石を合唱した。在学中は朝礼の時に、校歌と一日おきに歌っていた懐かしい歌でめでたく最後迄歌って全員拍手。

「このあと一室に集まりかねて仲居さんに用意をして貰っていたおにぎりやら酒ビトルなどでワイワイとお喋りをした。誰かが何かを話すと別の誰かがその後を引き取ってそれから誰々がこつこつと夜のふけるのを忘れて話した。昔の記憶力もさすが、一つを一つと鎖的に次々に話が続けるのも同じ苦しい時代を一緒に体験をした級友同志の心安さからである。しかし、欠席をした者が槍玉にあがる傾向もあり、欠席はしない方がいいなと思つたの

も事である。翌日は蔵王堂、吉水神社を回り、午後名倉君調達のマイクハウスで旅館を出発。59 年前の遠足の時のもう一枚の写真と同じ場所で又々記念撮影。十三重の石塔の前での写真だったので、大和三名園の一つの竹林院と見当をつけて同じ場所で撮影。この後如意輪寺、蜻蛉の滝を廻った。如意輪寺では、楠木正行の「からしと」の辞世の句の前で涙し、又吉野三絶の漢詩を見て先人の吉野、南期への想いの深さ歴史に深く感じました。川上村の蜻蛉の滝へも行つたが、この立派な滝はもともつと多くの人に見せたいが山奥なればこそ来れる人は少ないが、幽遠の趣が残されているのだらうと複雑な想いをおかしたのであった。古希を迎えまた迎えようとしている我々が又来年も皆元氣な顔で集まろうと約束して夫れ夫れの家路についた楽しい 2 日間であった。(大西義夫)

